

平成 24 年度

# 南丹市行政評価推進委員会報告書



平成24年11月

南丹市行政評価推進委員会

# 目 次

1	はじめに	1
2	行政評価推進委員会	1
	(ア) 役割	1
	(イ) 構成	1
3	平成24年度外部評価の報告	
	(ア) 評価対象施策	2
	(イ) 開催状況	3
	(ウ) 評価の視点	4
	(エ) 評価の結果	5
4	評価結果の総括	14
	(ア) 施策評価を実施して、特に指摘したい事項について	14
	(イ) 施策体系について	14
	(ウ) 施策と事業の関係について	14
	(エ) 外部評価の今後のあり方について	15
	(オ) 評価表の様式、記載内容等について	15
	(カ) 職員の取組姿勢等について	16
5	おわりに	17

## 1 はじめに

本委員会の外部評価の取組みは、総合振興計画に定める23施策のうち、今年度は、前年度の取組みを踏まえ、9施策（220事業）を抽出し、市の内部評価に対し、妥当性、有効性、効率性などの観点から、外部評価を行いました。

## 2 行政評価推進委員会

### (ア) 役割

市が行った内部評価について、施策の目的に照らし、施策に対する事業の貢献度を評価するとともに、総合振興計画の実現に向けた施策・活動となっているか、市民への説明責任を果たしているか、審議、評価し、改善すべき内容等を市長に意見及び提言を行います。

### (イ) 構成

敬称略 五十音順

氏名	所属・役職等	備考
窪田好男	京都府立大学公共政策学部 准教授	委員長
四方宏治	MAC京都公認会計士四方宏治事務所 公認会計士	
宮本三恵子	株式会社関西総合研究所 主任研究員	

### 3 平成24年度外部評価の報告

#### (ア) 評価対象施策

章 節	施策名	構成 事業数	関係部局
第2章	自然・文化・人を活かした郷を創る		
第6節	暮らしの安全と安心を守る	<b>42</b>	総務部 企画政策部 市民福祉部 農林商工部 土木建築部
第4章	共に担うまちづくりの仕組みを築く		
第2節	住民自治の地域づくりを進める	<b>11</b>	企画政策部 八木支所 日吉支所 美山支所
第4章	共に担うまちづくりの仕組みを築く		
第3節	多様な担い手のパートナーシップを育てる	<b>3</b>	企画政策部 八木支所 日吉支所 美山支所
第4章	共に担うまちづくりの仕組みを築く		
第4節	大学等と連携し、ともにまちをつくる	<b>2</b>	美山支所
第1章	生涯充実して暮らせる都市を創る		
第5節	ふるさとで働ける場をふやす	<b>5</b>	総務部 市民福祉部 農林商工部
第2章	自然・文化・人を活かした郷を創る		
第1節	豊かな緑と清流を守る	<b>45</b>	農林商工部 企画政策部 市民福祉部 土木建築部 教育委員会 八木支所

		美山支所
第2章 自然・文化・人を活かした郷を創る		
第3節 南丹ブランドの「ほんまもん」をつくる	<b>29</b>	農林商工部 美山支所
第1章 生涯充実して暮らせる都市を創る		
第2節 明日を担い、内外で活躍するひとを育てる	<b>45</b>	教育委員会 市民福祉部
第1章 生涯充実して暮らせる都市を創る		
第3節 生涯にわたって学び、活かす機会をつくる	<b>38</b>	教育委員会 企画政策部 八木支所 美山支所

(イ) 開催状況

会議	開催日	内容
第1回委員会	平成24年 9月19日	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 平成24年度行政評価の取り組みについて</li> <li>○ 平成24年度行政評価推進委員会の進め方について</li> <li>○ 評価方法オリエンテーション</li> </ul>
第2回委員会	平成24年 9月28日	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 施策評価 <ul style="list-style-type: none"> <li>・2-6 暮らしの安全と安心を守る</li> <li>・4-2 住民自治の地域づくりを進める</li> <li>・4-3 多様な担い手のパートナーシップを育てる</li> <li>・4-4 大学と連携し、ともにまちをつくる</li> </ul> </li> </ul>
第3回委員会	平成24年 10月5日	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 施策評価 <ul style="list-style-type: none"> <li>・1-5 ふるさとで働ける場をふやす</li> <li>・2-1 豊かな緑と清流を守る</li> <li>・2-3 南丹ブランドの「ほんまもん」をつくる</li> </ul> </li> </ul>
第4回委員会	平成24年 10月18日	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 施策評価 <ul style="list-style-type: none"> <li>・1-2 明日を担い、内外で活躍するひとを育てる</li> <li>・1-3 生涯にわたって学び、育てる機会をつくる</li> </ul> </li> </ul>

第5回 委員会	平成24年 10月25日	○ 平成24年度外部評価の総括 ○ 平成24年度行政評価推進委員会報告書
------------	-----------------	---

#### (ウ) 評価の視点

評価は、施策、事業ごとにヒアリングを行い、その中で質疑、意見交換を行いました。

評価に当たっては、次の「外部評価の視点」を参考に、施策ごとに総合的に判断して事務事業の数や内容を行政評価の視点からの指摘、財政削減の視点からの提案など具体的内容等を提示指摘しました。

(エ) 評価の結果

政策	第2章 自然・文化・人を活かした郷を創る
施策	第6節 暮らしの安全と安心を守る

評価項目	評価区分
行政評価の 指摘	<ul style="list-style-type: none"><li>・安全・安心という施策のくくりの中で、幅広い事業が展開されており、施策の細分化と事業の仕分けが必要。</li><li>・公衆防犯灯の設置基準の見直しが必要。</li><li>・自主防災組織の更なる充実、強化による消防団の負担軽減をすべき。</li></ul>
歳出削減の 提案	<ul style="list-style-type: none"><li>・消防団は更なる整備統合を図り、広域化を図ってはどうか。</li><li>・交通指導員については、更なる定数の見直しを図ってはどうか。</li><li>・防犯灯設置数のペースダウンによる単年度支出を削減してはどうか。</li></ul>

政策	<b>第4章 共に担うまちづくりの仕組みを築く</b>
施策	<b>第2節 住民自治の地域づくりを進める</b>

評価項目	評価区分
行政評価の 指摘	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集落支援員の設置については集落の実情を把握し、ニーズを整理すべき。</li> <li>・コミュニティ支援対策については拡大基調にある施策だが、中期的な目標を具体的に示していくよう改善すべき。</li> </ul>
歳出削減の 提案	<ul style="list-style-type: none"> <li>・美山地域振興事業の他の地域との整合性を含め、整理統合を検討してはどうか。</li> </ul>



政策	<b>第4章 共に担うまちづくりの仕組みを築く</b>
施策	<b>第3節 多様なパートナーシップを育てる</b>

評価項目	評価区分
行政評価の 指摘	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民協働の実現に向けて施策の充実、事業の必要性の整理、費用対効果等の客観的な評価をすべき。</li> <li>・達人バンクなどはホームページなどを使いやすく改善すべき。</li> </ul>
歳出削減の 提案	<ul style="list-style-type: none"> <li>・財政的に止むを得ない事情の場合は縮小し、削減することも考えられる。</li> </ul>

政策	<b>第4章 共に担うまちづくりの仕組みを築く</b>
施策	<b>第4節 大学等と連携し、ともにまちをつくる</b>

評価項目	評価区分
行政評価の 指摘	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現状では美山支所における佛教大学との連携事業が中心であり、事業展開が不十分である。</li> <li>・大学等との連携に、本庁部局に担当職員をおくなど積極的に、全市的、広域的な連携の可能性を考えるべき。</li> <li>・北部機構や林業大学等との連携の可能性を考えるべき。</li> </ul>
歳出削減の 提案	<ul style="list-style-type: none"> <li>・財政的に止むを得ない事情の場合は縮小し、削減することも考えられる。</li> </ul>

政策	第1章 生涯充実して暮らせる都市を創る
施策	第5節 ふるさとで働ける場をふやす

評価項目	評価区分
行政評価の 指摘	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ふるさとで働ける雇用の場をふやすことでは一定の成果があることが認められる。</li> </ul>
歳出削減の 提案	<ul style="list-style-type: none"> <li>・財政的に止むを得ない事情の場合は縮小し、削減することも考えられる。</li> </ul>

政策	<b>第2章 自然・文化・人を生かした郷を創る</b>
施策	<b>第1節 豊かな緑と清流を守る</b>

評価項目	評価区分
行政評価の 指摘	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農業、林業、環境保全と施策を分別、再編すべき。</li> <li>・林業においては過去の投入額を回収できるように、分収林のように債務の負担が伴う場合は現時点での評価をきっちり、はっきりすべき。</li> <li>・環境保全の観点からの森林整備は自然林のようになるべくコストのかからないようにしてはどうか。</li> <li>・有害鳥獣対策については一定の成果が上っていることは評価されるが、外部の知恵を活用するなどより効果的な研究をしてはどうか。</li> <li>・環境パトロールはより効果的な事業効果が得られるように事業内容を検討すべき。</li> </ul>
歳出削減の 提案	<ul style="list-style-type: none"> <li>・団体補助、指定管理等金額の見直しをしてはどうか。</li> <li>・林道、作業道等事業執行のやり方を検討してはどうか。</li> </ul>

政策	<b>第2章 自然・文化・人を生かした郷を創る</b>
施策	<b>第3節 南丹ブランドの「ほんまもん」をつくる</b>

評価項目	評価区分
行政評価の 指摘	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農業ブランド発掘、林業ブランド発掘環境保全と施策を分別、再編すべき。</li> <li>・事業の再構築による南丹ブランドの確立の筋書きが大切ではないか。</li> <li>・農業、林業で事業費が大きい国策に左右される施策が多い中、市としての中期的な課題の検討が必要ではないか。</li> </ul>
歳出削減の 提案	<ul style="list-style-type: none"> <li>・団体補助、上乗せ補助、指定管理等金額の見直しをしてはどうか。</li> </ul>

政策	<b>第1章 生涯充実して暮らせる都市を創る</b>
施策	<b>第2節 明日を担い、内外で活躍するひとを育てる</b>

評価項目	評価区分
行政評価の 指摘	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小学校の統廃合を進めていくという方針を出されて、難しいところがあるが進めていくべき。</li> <li>・ 地域の教育力の引き出し方、地域特性を生かした教育等、南丹市が自信を持って発信、PRをしていくべき。</li> <li>・ 教育委員会の事務執行調査が、重複しており、二重に評価するのは合理性を欠いている。</li> </ul>
歳出削減の 提案	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学校施設の維持管理コストがどうしても大きくなるので、効率的、計画的に修繕等を行い、子どもの安全確保に努め、無駄のないチェックが必要ではないか。</li> <li>・ 山村留学は外部資金の確保も検討に入れた自己継続のあり方など、資金投入の可能性等の模索が必要ではないか。</li> </ul>

政策	<b>第1章 生涯充実して暮らせる都市を創る</b>
施策	<b>第3節 生涯にわたって学び、活かす機会をつくる</b>

評価項目	評価区分
行政評価の指摘	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行政が提供する社会教育、住民が自ら取り組む生涯学習という部分があいまいになっているので、行政の公金を使ってやっているというアピール、住民の意識の持ち方が見えない。</li> <li>・単発的な事業の参加人数等のアウトプットから、地域活動に繋がった成果、アウトカムを評価指標にしていくべき。</li> <li>・公民館、プール等の施設の有効活用を検討すべき。</li> </ul>
歳出削減の提案	<ul style="list-style-type: none"> <li>・財政的に止むを得ない事情のある場合は、社会教育、社会体育施設の維持管理費の見直し、縮小や指定管理制度の積極的な活用を可能な限り進めることが必要ではないか。</li> <li>・団体補助は企画型、プロジェクト型へ移行し、基本的に廃止していく方向ではないか。</li> <li>・イベント型補助金も精査し、補助の内容を整理見直す方向ではないか。</li> </ul>

## 4 評価結果の総括

現在の大変厳しい南丹市の財政状況下で、総合振興計画に掲げるまちづくりを着実に進めるための施策の推進にこの結果を反映していただき、今後この行政評価が形骸化することなく有効に活用されることが重要であると考えます。

そういった観点から、本委員会外部評価を通じて感じたことを今後の課題として述べたいと思います。

### (ア) 施策評価を実施して、特に指摘したい事項について

全体的に改革のスピードが遅く、合併後6年が経過した今なお旧町の事業や施策がそのまま引き継がれ実施されています。施策の目的に照らし、また費用対効果を検証して、事業の整理・統合・削減を急ぐことが必要と考えます。

#### 〔委員会での指摘〕

- ・ 施策の優先順位と削減目標を記載すべきではないか。
- ・ 財政規模の縮小を踏まえて事業費・目標を記載すべきではないか。
- ・ 事業を縮小するなら具体的アイデアや提案が必要ではないか。
- ・ 事業貢献度表の評価結果を生かしていくべき。
- ・ 外部評価委員会指摘事項や提案を真剣に受け止め、尊重していただきたい。
- ・ 外部評価結果の翌年度事業への反映や担当課の考えを記載すべきである。
- ・ 施設の統廃合や改善・再編を行い、効率化を図ることが必要ではないか。

### (イ) 施策体系について

総合振興計画の施策体系については、事業の効果、施策の目標の達成状況が評価できる単位に再構築することが必要と考えますので、次期計画策定時にご検討願います。

また、関連する個別計画との整合性も考慮し、市民にわかり易くする必要があります。

#### 〔委員会での指摘〕

- ・ 施策体系、事業の整理をすることができるものもあるのではないか。
- ・ 全体的な施策の配置を見直す必要がある。
- ・ 施策をまたいで類似の事業があり、整理が必要である。

### (ウ) 施策と事業の関係について

施策シートの記載内容とその施策を構成する事務事業が、施策においてうまくリンクしていない。主な施策展開に対して、その対象となる事務事業がどれなのか明確にするなど、また、複数の施策に関連する事業として意図されているものについては再掲して、関係を



わかりやすく整理する工夫が必要と考えます。

#### 〔委員会での指摘〕

- ・ 施策の目標を達成する手段として整理されている事業が、他の施策の目標達成の手段となっていることもある。
- ・ 関連する事業の掲載の仕方を工夫して、目標達成への道筋をわかりやすくする必要がある。
- ・ 目的とそれを解決するために何をするかということと、その具体的な手段の事業の繋がりが見難い。

#### (エ) 外部評価の今後のあり方に向けて

2期目の外部評価に入り、評価委員の数が3人という少数になったことで、より密な議論が可能になりました。

南丹市のすべての評価が完結したということではないので、今後も何らかの形で外部評価を継続していく必要があると思います。

#### 〔委員会での指摘〕

- ・ 当面の間は、一般的な市民の参画として市民意識調査を充実させていく必要がある。
- ・ 評価の具体的方法、評価結果のフィードバックのあり方をさらに検討する余地がある。

#### (オ) 評価表の様式、記載内容等について

行政評価の大きな目的の一つは、評価表を通じて、市が行った事業の目的や成果、要したコストなどを公表し、市役所の仕事を市民に見てもらうことにあります。

この評価表が、市民にとって「わかりやすく」「納得のいく」ものとなるように、常に行政評価の目的・成果を意識して評価に臨むことが必要と考えます。

#### 〔委員会での指摘〕

- ・ 事業活動記録について、「誰が」「いつ」「どこで」「何を」「どうする」は、最低限記載していただきたい。
- ・ 活動した内容について、自己評価と結果を記載して今後の目標を記載することが必要である。
- ・ 施策評価表の評価欄について、「こういう成果があった」など効果をアピールしていただきたい。
- ・ 事業活動記録を一読しただけでは活動内容がわからないものがあるのは困る。
- ・ 委託事業費の委託先と活動内容の記載が必要である。
- ・ 法定事務の根拠法令記載が必要である。
- ・ 施策ごとの判定結果は無くてもいいのでは。

- ・ 施策全体の目的と手段の関係が施策評価表でわかるようにしていただきたい。

#### **(カ) 職員の取組姿勢等について**

外部評価を終えて、一見「良くできた評価表」となっているにも、ヒアリングにおいては、職員の危機感や、改善・改革に対する工夫や熱意が伝わってこないところもあったように感じます。

今後は、外部評価での指摘や提案を踏まえて、財政縮小再編をしていくとなると、どういふ大方針なり具体策なりを現状考えているのか提案が必要であると思います。

#### **〔委員会での指摘〕**

- ・ 内部評価の意思決定理由と目標の記載が必要である。
- ・ 市が本当に公共的にやらないといけないことなのか、事業の必要性を精査してもらいたい。
- ・ 各担当部局で、今後財政を縮小再編していくとなると、必要性があり効果がある事業でも縮小・削減して行くことが必要であると考えます。
- ・ 事業の効果を問う視点を各職員の方にもう少し持っていただきたい。

## 5 おわりに

前年度に引き続き我々3名が9月から10月にかけて計5回のヒアリングを踏まえ外部評価を行ってきましたが、そのなかでの行政評価による指摘や、歳出削減の提案に加えて、この評価結果を参考にしながら、南丹市の施策、事務事業を進めていただくことを期待します。

また、財政の縮小再編をしていくとなると、必要性があり効果がある事業でも取捨選択して縮小・削減しなければなりません。市職員には、今回の外部評価をきっかけとして、担当部局内部で自ら積極的に各事業を見直す機運がさらに高まり、情報収集能力、事業遂行能力などの習得や向上に努めようとする自主的な取組みと、自発的に改善に取り組む職場環境を自ら求めていく意識を持っていただき、様々な市民の考えや意見を収集し、それらを行政運営に生かしながら、より一層、成果の向上に努め、市民満足度を高めていただきたいと思っています。

本報告書は、新たな外部評価委員会として、限られた時間と議論を経て、取りまとめたものであります。今後この報告書が市民や南丹市職員に生かされ、総合振興計画に掲げる「森・里・街がきらめくふるさと 南丹市」の実現の一助なれば大きな喜びです。さらに南丹市の行政評価制度がより一層充実、発展すること期待します。

最後になりましたが、評価の過程で対応いただきました担当者をはじめ、多くの関係者にご協力をいただきましたことに、委員一同感謝申し上げます。

南丹市行政評価推進委員会

委員長 窪田好男

委員 四方宏治

宮本三恵子